

## 令和4年度 展覧会のご案内

休館日

【徴古館農業館】木曜日(祝日の場合はその翌平日) 年末3日間は休館

【美術館】木曜日(祝日の場合はその翌平日) 年末3日間は休館

【せんぐう館】毎月第2・4火曜日(祝日の場合はその翌平日)

※特別展「生きる正倉院」会期中は、木曜日休館(11/3文化の日は開館)

※展示替えによる臨時休館有り。

※その他臨時に休館することがあります。詳しくはホームページをご覧ください。

神宮の博物館

検索

令和4年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	令和5年	1月	2月	3月
------	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	------	----	----	----

特別展

「生きる正倉院-伊勢神宮と正倉院が紡ぐもの-」

本館常設展示①神宮のおまつり(外宮御饌殿復原展示)

②第59回式年遷宮奉賛美術品-戦後の遷宮を支えた芸術家たち-等

本館 御装束神宝展示

開催中～7月27日(水)

展示準備の為  
臨時休館

9月13日(火)～11月9日(水)

11月18日(金)～

式年遷宮で調製される御装束神宝の数は714種1576点にも及ぶ。神宝は約千年にわたる歴史の積層と祖型を求めめる考証と最善を尽くす技術の上で調製されている。御装束神宝の展観を通して式年遷宮が伝えてきた、わが国の歴史と文化について考える機会とする。

連続と繰り返し調製されてきた神宮神宝と正倉院宝物が紡ぐ歴史の重層には、いずれも悠久千数百年にわたって日本文化の技術と精神を今に伝え、未来へと継承する営みがある。本展覧会では今後の遷宮齋行に欠かせない、わが国の伝統文化の興隆と発展への理解を目的として、神宝をはじめ正倉院宝物再現模造品などを借用展示する。

伊勢の神宮について詳しく知っていただくため、おまつりや歴史・文化に関する資料を中心に展示する。

常設展示①皇室御下賜品・明治の産業と自然史の資料・明治時代の剥製  
②大正・昭和の蠟細工

開催中～7月27日(水)

休館 ※特別展「生きる正倉院」会期中も同様

11月18日(金)～

自然の産物がいかに人の暮らしに役立つかをテーマに収集された明治期の資料を紹介。また大正から昭和にかけて製作された蠟細工のうち、菌糸類・果樹類蠟細工模型を展示。併せて田中芳男が作製した蠟墨による採取標本(掛軸)等を展示する。

特別展

「生きる正倉院-伊勢神宮と正倉院が紡ぐもの-」

美術館収蔵品展

特集

「令和2・3年度奉納 神宮式年遷宮奉賛美術品展」

4月22日(金)～5月24日(火)

5月27日(金)～7月27日(水)

展示準備の為  
臨時休館

9月13日(火)～11月9日(水)

11月18日(金)～令和5年2月14日(火)

2月17日(金)～4月25日(火)

皇室新春の「歌会始」の御題を主題とする特別展。本年度は「恋」にまつわる近現代の美術・工芸品を展示する。

『神宮美術館収蔵品図録』第1輯～3輯(既刊)に収められた作品を3期に分けて展示した「神宮美術館アーカイブス」を補完する企画展示。本年は平成25年度(2013)から令和元年度(2019)までの収蔵品から約30点を公開する。

平成5年開館の当館には、当代一流の作家の方々から奉納された遷宮奉賛の真心こもる作品が現在約470点収蔵されている。わが国の美術工芸作品の歩みを展望できる「美の殿堂」を目指して活動。そのコレクションから、約30点の作品を展示。

平成7年よりはじまった恒例の特集展示。当代を代表する芸術家の方々から神宮に献納された美術・工芸作品を公開するもので、本年度は令和2・3年度(2020・2021)に奉納の華麗・秀逸なる作品の数々を公開する。

《20年に1度行われる式年遷宮の祭と、神々に奉られる御装束神宝を調製する技と自然から得られる素材について紹介する》

展示室3 【①永遠の匠たち-御装束神宝調製の技-】

玉纏御太刀 公開中～令和5年6月26日(月)

展示室4 【②永遠の匠たち-御装束神宝調製の技-】

棹御弓・矢 公開中～6月26日(日)

唐組平緒・額纒帛・神宮裂・天然染料 6月30日(木)～令和5年6月26日(月)



玉纏御太刀  
(たままきのおんたち)



棹御弓  
(さずきのおんゆみ)



唐組平緒  
(からくみひらお)



額纒帛  
(こうぢちく)

開催中～令和5年3月31日(金)

第62回神宮式年遷宮完遂後、引き続き約10年かけて行われる摂社・末社・所管社の遷座祭について、令和4年度に斎行予定の神社を紹介する。

徴古館

農業館

美術館

せんぐう館

せんぐう館